

日本倫理・哲学グランプリ 2020

【課題】

次の4つの課題文のうちから1つを選択し、後の「哲学エッセイを書くにあたって」を参考にしつつ、エッセイを書きなさい。

- ① 一人一人の人間がもっている、真理を知るための力と各人がそれによって学び知るところの器官とは、はじめから魂のなかに内在しているのであって、ただそれを——あたかも目を暗闇から光明へ転向させるためには、身体全体といっしょに転向させなければ不可能であったように——魂全体といっしょに生成流転する世界から一転させて、実在および実在のうちでも最も光り輝くもの、つまり善を見ることに堪えうるようになるまで、導いてゆかねばならない。

プラトン

- ② あらゆる欲望は不足を前提としている。そしてあらゆる不足はつらく感じられるものだ。したがって、われわれの欲望と能力の不均衡にこそ、われわれの不幸がある。能力が欲望と同じだけあれば、それは絶対的に幸福な存在と言えるだろう。

ジャン＝ジャック・ルソー

- ③ 言語はすべて、同じ誤りを証している。われわれが習慣的に、石だとか、惑星だとか、動物だとかを語るときには、あたかも、そういう個体的事物がほんの一瞬でさえ、それ自身の本性において、本当はそれの必須な要因である環境から分離されても存在しうるかのように語る。

アルフレッド・ノース・ホワイトヘッド

- ④ 夏草や兵どもが夢の跡

松尾芭蕉

哲学エッセイを書くにあたって

哲学エッセイは、学校でよく課題に出るいわゆる「生活作文」（生活の中で体験したことについて自分が感じたこと、考えたことを書くもの）ではありません。そうではなく、ある問題やテーマに関して、自分なりに問いを立て、様々な角度から考察し、筋道立てて書くものです。評価のさいには以下のような点が重視されます。

- ・ 選んだ課題文に含まれるテーマや問題とどれくらい向き合っているか。
- ・ そのテーマや問題についてどれくらい深く考え、理解しているか。
- ・ 自ら問いを設定し、それに答えるべく論じ、結論を出しているか。
- ・ 主張や意見を述べるさい、なぜそう言えるのか、明確な理由を挙げているか。
- ・ 具体的で分かりやすく、説得力のある首尾一貫した論述になっているか。
- ・ 反対の立場も検討しつつ、自分の立場をはっきりさせて論じているか。
- ・ 自分なりの論点や考えを含んだ個性的なエッセイになっているか。

こんなことを言われても、実際にはどうすればいいのか分からないかもしれませんし、これらのポイントをすべて満たすなんて無理でしょう。でも、書きながら迷い、悩んでください。それでもチャレンジするのが大事です。

* 「倫理哲学グランプリ」のHPの「実績」をクリックすると、過去のメダリストのエッセイが読めます（青字で下線が引いてある人）。書く際に参考にしてください（<https://jpe-gp.org/result/>）。